

令和4年度 石橋中学校区合同学校運営協議会

令和4年12月6日(火) 14:00～

於：新石橋公民館 会議室1

担当 石橋中学校(議事録・写真撮影)

○石橋中学校区合同学校運営協議会名簿

- ・石橋小学校 中川 賢一様(会長) 黒須 智子様(副会長) 設楽 孝男様(校長)
- ・古山小学校 小林 靖様(会長) 中川 賢一様(副会長) 秋山 貴子様(校長)
- ・細谷小学校 倉井 充裕様(会長) 高岩 順子様(副会長) 蓬田 みどり様(校長)
- ・石橋北小学校 大塩 宗里様(会長) 野口 利男様(副会長) 坂本 美保様(校長)
- ・石橋中学校 青木 正徳様(会長) 柏崎 松美様(副会長) 田熊 利光様(校長)
- 齋藤佳代子様(教頭：本会議司会)
- ・石橋中学校区担当 地域学校協働活動推進委員 橋本 俊明様
地域学校協働活動推進委員 西本 由利子様(令和3年度まで)

※記録 秋山 実(石橋中学校)

会議次第

1. 開 式

2. 担当校学校運営協議会長あいさつ

3. 担当校長あいさつ

各校の課題を共有し、子どものよりよい成長のために協議できればと思います。この機会を大切にして、課題解決に努めていきたいと思います。

4. 自己紹介

5. 協議

(1) 各校からの近況報告

石橋中学校

石橋小学校

古山小学校

細谷小学校

石橋北小学校

(2) 各校の学校運営協議会での提案・協議、情報交換

発言及び協議内容(開会、自己紹介、閉会は省略 ※敬称略)

発言者	発 言 内 容
青 木	2. 担当校学校運営協議会長あいさつ 寒さも厳しくなり、コロナウィルス感染症やインフルエンザ等の心配もあり、校長先生方におかれましては、悩ましい日々が続く毎日だと思いますが、子どもの成長のために頑張られていることと思います。 地域と学校が協働して子どもを育てることが重要であり、お集まりいただいた委員の皆さまは、その役割を担う方々です。 そのためには、小中の連携や関わり、情報の共有等が重要になります。この会議がその貴重な場となることを願っております。
田 熊	3. 担当校長あいさつ 各校の課題を共有し、子どものよりよい成長のために協議できればと思います。この機会を大切にして、課題解決に努めていきたいと思います。

発言者	発言内容
田 熊	5. 協議 (1) 各校からの近況報告 ・石橋中学校 コロナ禍の影響で行事の削減が心配されたが、規模を縮小しながらも今年度は、全ての行事を実施できている。6月には、学年を入れ替えながら合唱コンクールを行った。学年の発表に合わせて保護者の入れ替えも行い、全学年の発表ができた。9月には、運動会を行った。3年生を中心として自分たちでマスゲームを作り上げた。終わった後の感動がなんともいえなかった。10月には、文化祭（輝石祭）を行った。SDG'sをテーマに調べたことを発表した。タブレットを使用しての発表では、素晴らしいプレゼンテーションが各発表の場で見られた。また、自分たちで平和に対する思いを込めて劇を作り上げたグループもあった。生徒や保護者のなかでコロナの前後で変化が見られた。行事をやると「やっていただいてありがとうございます。」という感謝の言葉をもらえるようになった。いろいろな行事を行うことが実は、当たり前ではないということに気付いた生徒が増えた。また、「学び合い」による学習で自分たちが習得するだけでなく、発信する学びを身につけた生徒もいる。心配事は集団不適應の生徒が増えたこと。HSCなど今まで以上に周囲に敏感な生徒が増えた。そのような生徒に対して別室（ステップルーム）を用意し、集団に適應できる訓練をしながら対応している。
設 樂	・石橋小学校 規模を縮小しながらも行事を実施できた。だが、第8波の影響で持久走大会だけは、中止せざるを得ない状況。2年生の「リンゴ狩り」は延期の方向。体調を崩す児童が多く、学習面でのおくれが心配。そのような児童に補習を行いたくても、時間がとれないのが問題。言葉の行き違いによる子ども同士のトラブルが多い。素直で純粋な児童が多いのでこのまま成長してほしい。そのための小中一貫教育、合同運営協議会となってほしい。運営協議会では、学区内の危険箇所に関する話題が多い。
秋 山	・古山小学校 運動会を2部制で実施。持久走大会は中止。体調不良者が40名いる。体育の授業の中で実施するが、持久走大会の名前は使わない。吹奏楽部が県大会に出場した。また「グリムの森イルミネーション」の開会式や公民館の開館式など地域の行事にも参加している。保護者会や地域への学校開放ができずに児童の姿を見てもらえる機会が減った。地域から児童に対するお褒めの言葉が届くようになった。
蓬 田	・細谷小学校 創立150周年式典が終了した。49名の児童が在籍しているが、そのうち20名は他学区からの通学者。小規模特認校の特性を生かし、豊かな体験の中で心身を育てている。2・3年、4・5年生が複式学級だが、支援助手の手を借りて授業を実施している。縦割り活動が児童の活動の軸となっていて、全校活動も多く、一人一人の活躍の場も多い。
坂 本	・石橋北小学校 縦割り活動が盛ん。授業参観を1日3時間に分けて公開した。家庭教育学級も子育てについて3回実施した。コロナ禍でもやれることはやるというスタンス。発表会は未実施。持久走（記録会）は15日に実施予定。感染症は落ち着いている。なんとか行事は行える状況である。学校支援ボランティアが多く、落ち葉はきのボランティアでは、多くの保護者が集まってくれた。

発言者	発言内容
青 木	5. 協議 (2) 各校からの提案・協議・情報交換 ・先進地区では、合同協議会をどのように進めているのか。
西 本	・国分寺、南河内でそれぞれの特徴がある。石橋地区は、どこもパトロールのボランティアが足りない。 南河内では、「ワンワンパトロール」のバッグを作り、協力を募っていた。石橋は今、各小学校とも1桁の人員で行っている。どの小学校区でも下校時の見守りがほしいという声が多かった。石橋地区全体で手を組んで一体となつてできないか。
秋 山	・「ワンワンパトロール」は、南河内第二中学校区で各々の学校で行っている。クリーン活動も地域でやっている。学校が主催となり、運営協議会が協賛という形で回覧板等を利用し、人員を募っている。祇園小学校は、バッチを作り今年度から動いている。古山小学校もマフラータオルを作り、お願いをする予定である。
蓬 田	・細谷小では児童が卒業するとボランティアも引退となってしまうので、回覧板等でお願いをしている。ウィンドブレーカーを作って配布している。細谷小学校の学区では、まだ、祖父母に当たる世代が現役世代であり、曾祖父、曾祖母にお願いをしているが、とにかくボランティアは減っている。
坂 本	・北小学区でも減っている。そんななかでも今市事件から18年間続けていただいている方もいてありがたい。「ワンワンパトロール」の募集もお知らせしている。予算をどう使うかについては、話が止まっている状況。「ワンワンパトロール」の活動がスクールガード(15名くらい)の活動と重なり、ベストはすでに用意しているのでさらに帽子を用意して活動していただこうかと考えている。ありがたいのは、スクールガード等の参加者が、周囲にも声をかけてくれて参加者を維持している。地域の声かけで成り立っている。
大 塩	・北小学区では、スクールガードの組織がしっかりしている。老人会に声をかけたらやっていただけるという声が返ってきた。歩くことは困難だが、角に立って見守ったり、散歩の時にベストを着て歩いたりするなどやれることで参加してもらえることになった。
青 木	・児童の卒業でボランティアをやめていく人増えて、ボランティアの人数が減っているという現状の中で、老人会への声かけは有効なのは。他に何かあればお願いします。
倉 井	・細谷小は人が少ない割には交通量が多い。児童が2人くらいで道路を渡ろうと車が止まるのを待っていてもなかなか車が止まってくれない。だから、信号機の設置や横断歩道を作ってもらいたいと要望を出してもなかなか要望が通らない。このようなとき、他校では、どのようにしているのか。
小 林	・そのような要望は、自治会から出ないと難しいものもある。学校からではなく、自治会から行ってもらえるように繋がればよいのでは。
中 川	・自治会の力は大きい。横のつながりが大切で、古山小学校では、声を掛け合うことで繋がっている。繋がりがあって、ボランティアを続けてもらえることが素晴らしい。何でもかんでも要望して話を通してもらおうというのは難しいが、内容を絞って要望していけば聞き入れてもらえるかもしれない。石中のアトリウムにおける鳥の糞にしてもボランティアだけで清掃を続けていくのは難しい。

発言者	発言内容
柏 崎	・石中のアトリウム清掃も何度か行政に声をかけてみて、来年度から業者かシルバーに週に1度お願いしてみろという回答があった。 自治会や行政などいろいろな方向へ声をかけて広げていくと灯りが見えてくる。困っていることをオープンにして、周知していけばその情報を耳にしたことで動いてくれる人もいますので、もっともっとアピールする機会を増やしてみてもはどうだろうか。声を上げていけば地域を越えて協力してくれる人もいますのではないかな。
西 本	・学校周りの横断歩道等の要望は学校から出ないと難しい。ミラーに限っては、年間に設置する個数が決まっている。早めにどんどん要望を出していかないと後回しにされてしまう。学校運営協議会から要望書を出し続けていくことも効力があるので諦めずに出し続けてほしい。
中 川	・旧石橋公民館がまだ使えるが、どのように使うか市民からの声をもっとほしい。予算ありきで新しいものを作ったりするのではなく、既存のものの寿命を延ばして使い続けた方がいい場合もある。とにかく言い続けることが大切。自治会長連絡会等に校長先生たちが伝えることもいいのではないかな。民生委員の会議とかで伝えることも手段としてはよいのではないかな。地域住民も困っていることは同じだから自治会と協力しては。
青 木	・年度当初に働きかけるのが手だということで、各校で精査しておいて要望を働きかけるということで。 南河内や国分寺地区ではどうなのか
橋 本	・3地区の推進会議での情報。 南河内第二中ではチラシを運営協議会長との連名で回覧している。地域に知ってもらうことが重要で、組織に投げかけていくことが大切だと思う。
青 木	・小学校では、パトロールの人数が出たが、中学校ではどんなことが。
田 熊	・アトリウムの鳩の糞のこともあるが、校庭の除草等も大変。 今、公仕が1人で行っている。とにかく敷地が広いので相当な労力。
西 本	・学校区に回覧してみて、学校区で共有してみてもどうか。そのようなチラシや募集も南河内第二中のように運営協議会が作っていくといいのではないかな。ボランティア募集の発信を全校区で出してみてもは。居住区や学区が変わると話題が共有できないのが石橋の特徴。
青 木	・発信の仕方が重要だということで。
秋 山	・学校ごとだと限界がある。公民館などに学校便りを置くというのも手だと思う。
橋 本	・公民館なら利用者が広めてくれることもある。
柏 崎	・回覧板に各校の学校便りを入れてみては。各校のものをまとめてみてはどうだろうか。全世帯分を印刷しなくても各校のものを載せて見てもらうのも手では。せっかく学校便りを出しているのだから地域の方に見てもらうのはどうだろうか。
秋 山	・それでは、コストがかかる。自治会だけでもかなりの数があるのでかなり負担になる。それならば公民館等に置いてもらう方が数も決まる。
橋 本	・公民館としても情報発信の役に立ちたい。
青 木	・共有という点では、全世帯に見てもらいたいのが、コスト面で予算が厳しいというのが現状。

発言者	発言内容
倉 井	・病院等も利用させていただければよいのでは。
西 本	・できれば先生ではなく、運営協議会のメンバーでできるのでは。学校でやるのでは負担も大きく難しい。年1回くらいならばできるのでは。広報誌での募集は年に2回しかできないので。
黒 須	・自治会も民生委員も何が困っているか分からない。運営協議委員会として困っていることを文書として発信してみてもは。ピンポイントではっきりさせるとよいのではないか。
中 川	・メール配信で学校便りを共有して発信しては。それぞれの学校で作ったものを見せ、それぞれの学校便りに載せてみることも。
青 木	・どのようにするかは、各校で連絡を取り合って。
大 塩	・回覧がたくさん自治会長のところに来ると体力的にも労力的にも大変。対応しきれずに苦情がくることもある。回覧よりもメールの方が今の人に合うのでは。
柏 崎	・ホームページをもっとアピールして見てもらうのは。
青 木	・KEYAKI ネットのお知らせをしてみてもどうだろうか。
中 川	・児童表彰の対応は各小学校でどのようにしているのか。 石橋小学校では、運営協議会の委員は全員招待されている。市長と教育長が参加しているが、賞状が市長名なのに教育長が代読してメダルを授与するのが市長だったが、どうなのか。本人がいるのに代読というのも違和感があるが。
坂本・蓬田・ 秋山	・メダルが市長メダルということで市長自らがメダルをかけるので、賞状を読まないのでは。
青 木	・これで終了といたします。